奉　仕

国際ロータリー 第2650地区
2002～2003年度 ガバナー　**岡村 吾郎**

「恒産なければ因って恒心なし」

恒産などなくても恒心を持ち続けるのが理想ですが、それは志操堅固な人にこそ初めて可能なことです。一般人にはそれを期待しても無理です。何をおいてもまず生活の安定が必要であります。

（孟子）

「奉仕を主とする事業は栄え利益を主とする事業は衰える」

相手のために尽くすことに喜びを見出して仕事をしてこそ着実な実績が確保できるのです。

（フォード）

人間が求める豊かさには、1）収入の豊かさ　2）資産の豊かさ　3）時間の豊かさ　4）教養の豊かさ　5）精神の豊かさの５つがあります。現在の日本人は一応　1）2）の目的は果たしましたが、残る　3）4）5）をどの様にして身につけるかが課題ではないでしょうか。

時間、教養、精神の豊かさを身につける為に、自分の仕事を通して、相手に喜び、感動、ほっとする場を提供し、そして自分の心にも喜びを感じることが、所謂『最もよく奉仕する者は最も多く報われる』のロータリーの信条であるのです。そして充たされた心の喜び、豊かさが、慈愛の心をはぐくみ、総ての人々に対して、忙しい中にも時間を割き、物質的な援助、精神的な援助という奉仕活動に発展してゆくのではないでしょうか。これが私達ロータリアンの奉仕活動ではないでしょうか、と考えながら、その奉仕活動がささやかでも重要な意味があることを忘れないで職業奉仕に専念していただきたいと思います。

貴方の心に
奉仕の花を
咲かせてください

寄稿　「ロータリーの目的と手段のちがいを知る」

京都南ロータリークラブ
五十嵐　猪之助

I　私は、ロータリー歴34年目にして、ロータリーの「目的」と「手段」のちがいを知った。入会当初に、先輩各位から「**ロータリーとは、奉仕をする団体ではない**」、「**ロータリーとは奉仕を志す人々の集まりであり、奉仕をする人を養成する所である**」と教えられ、そのように理解し、行動してきた。しかし、2001年規定審議会による規定の大幅な改正に伴い、これまでの文献を復習していたところ、なんと、灯台もと暗しというか、「**ロータリーの友**」の横書き1頁に『**歴史的に見ても、ロータリーとは、職業倫理を重んずる職業人**（実業人、専門職業人）**の集まりなのです。**』の一行が目に止まった。まさに「**ロータリーの目的**」は、「**職業倫理を追求する職業人の集まりである**」ことをはじめて知った。そして、その「**手段**」として「**奉仕活動を実践する**」のであることもわかった。

『本来、「**ロータリー運動**」とは「**職業追求**」に「**倫理基準**」を与えようとし、一人一人のロータリアンに「**奉仕活動**」を要求するものであり、かつ、その効果が「**地球社会の発展の一助**」となることを念願するものである。』と関西ロータリー研究会で学んだ。

II　さらに「**ロータリーの友**」では、『20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、「**商業道徳の欠如**」が目につき、青年弁護士、ポール・ハリスは、この風潮に堪えかね、友人３人らと語らって「**互いに信頼できる公正な取引**」と「**仕事上の善良な仲間を増やすため**」1905年２月23日に、シカゴ・ロータリークラブを誕生させた』と記してある。したがって、「**職業倫理の追求・商業道徳の高揚**」こそが、ロータリー創立の原点であり、創始の精神であったことを忘れてはならない。つまり、職業人は「**職業倫理の追求・商業道徳の高揚**」を求めて、ロータリークラブに入会し、「**奉仕活動**（四大奉仕、例会出席、親睦活動など）」を実践する中で、互に切磋琢磨し合い、「**綱領**」に示された「**道徳水準や、業務の品位を高める**」学習をしてゆくのである。

しかるにＲＩは、1980年に創立75周年を記念した、3Hプログラムをスタートさせ、その後、ポリオ・プラスそしてW.C.Sと次々にＲＩ主催、地区主導の「**奉仕プログラム**」を展開してきたため、ロータリーの「**目的**」である「**職業倫理の追求**」は、何時か棚上げされ、「**目的**」と「**手段**」が主客転倒してしまった。これに伴い、「**ロータリークラブの自治**」もまた希薄になり、ひいては「**会員減少の一因**」ともなってしまった。

III　しかし、「**職業倫理**」は、あくまで「**形而上の現象**」であり、哲学的なものであるため、形として示すことは難しい。そこでＲＩは、1955年ロータリー創立50周年記念時のＲＩ会長に就任したハーバード・テーラーから、「**四つのテスト**」の著作権を譲ってもらい「**職業倫理訓**」として推奨することにした。テーラーは敬虔なクリスチャンであり、その原文は、聖書エレミア書、第９章23～24節から引用されている。『**～いつくしみと、公平と正義を行っている者であることがそれである。わたしはこれらの事を喜ぶ**』と。

原文にある「**正義**」は「**真実**」を、「**公平**」は「**公正**」を、また「**いつくしみ**」は「**好意と友情**」を、そして、「**これらの事**」は「**みんなのために**」の意味を含んでいる。テーラーは『**我が自叙伝**』の中で、「ロータリーは、どの宗教とも直接の関係はない。しかし、キリスト教国で生まれた由来から、キリスト教の信仰と倫理はかかわっていると思う」と語った。また2002年４月の第2650地区、地区大会で、ＲＩ会長代理ビチャイ・ラタクル氏（現在のＲＩ会長）は、会長代理挨拶およびアドレスの２回にわたり、「**職業奉仕**」の重要性を強調され、「**高い倫理基準**（スタンダード）」を遂行してほしいと要望され、“He profits most who serves best”の復活を称えられた。

ロータリーの「**目的**」は、ひたすら「**職業倫理の追求**」であり、その「**手段**」として「**奉仕活動の実践**」があることを自覚し、職業人としての「**倫理観の高揚**」に務めるべきである。

今、実践のとき

地区社会奉仕委員会　委員長　中田 全一（近江八幡ＲＣ）

「環境共生」は、人間の生きざまを改めて問い直すものであります。天恵の自然への限りない感謝は、日々活かされている心での営みであります。開発を全てに優先した時代から、ゆとり、うるおいを求めての生き方へと大きく様変わりしつつある価値観は、人類の英知故といえましょう。

「協働（パートナーシップ）」は、行政と住民が対等のパートナーとして、まちづくりを進めるものであります。先人が培ってきた歴史や文化を伝承することはもちろんのこと、住んで誇れるまちづくりに参画し、次代へ正しく申し送るためにも住民自らが考え、企画し、実践の手法までも協議していくことこそ時代の要請であります。

「自治」、今、地方自治のありかたが、改めて問われています。地方分権における権限の委譲や、規制緩和は、地域の自主性と特性を発揮する機会であると同時に地域間競争でもあります。市町村合併を考えてみても、平成の大合併といわれながらも遅々として進まないひとつに、地域の歴史的背景・生活圏域・地域特性等を新しい合併体のコンセプトとして共有出来るのかどうかが難しいことがあげられます。

まちのコンセプトは、地域住民主導で考えていくものであります。自分たちのまちを、将来どんなまちにしたいのかを住民同士で議論しあい、コンセプトを作っていくことが、行政と住民との距離をなくし、身近な自治を確立することでしょう。

「地域」を問い直すことは、コミュニティーの復活でもありますし、問い直すことへの参画は、住民の義務ではなく権利としてとらえ、地域社会奉仕の実践に汗したいものであります。

委員会としましては、地区内社会奉仕活動の情報を速やかに各クラブへ伝達する事を心掛け、また各クラブの事例を発表しあう場を設け、事業展開のお手伝いが出来ればと思います。

具体的には、

1．地区内各クラブの社会奉仕活動に関するアンケートをまとめ、各クラブへ送付しました。

2．2001～2002年度地区社会奉仕委員研修セミナー報告書を、各クラブへ送付しました。

3．社会奉仕委員長会議を11月15日（金）に開催し、地区内全クラブの事例発表が出来ますようにグループ別会議を行うべく企画致します。

4．懸案であります、山崎PG提唱のロータリー地域奉仕共同隊設立の呼びかけを致してまいります。

2001～2002年度　社会奉仕委員長会議

地球環境を考える

地区環境保全委員会　委員長　羽根 史朗（橿原ＲＣ）

昨今、地球環境の悪化は、日増に増大しています。大気汚染、環境ホルモン、地球温暖化等、取り上げれば枚挙にいとまがありません。地球温暖化により、気候にも変化が見られます。東ヨーロッパでは100年来の大洪水が起こり、氷河が解け崩落が起っています。また、見られない昆虫、植物も現れるようになりました。加速度的に変化している様です。

現代人の日々、普通の生活、それ自体が地球に悪影響を与える様になってきました。我々現代人は、車、電気、ガス、石油製品等なしの生活は考えられません。もはや過去へは戻れないのです。現代人の一人当たりの消費エネルギーは、過去の比ではありません。

我々ロータリアンは、地球環境悪化にどう対処するのか？社会奉仕（環境保全）は、地域社会にどう貢献するかであります。ロータリアンが、地域社会に環境保全の手本となり、環境保全の大切さをＰＲし、地域社会に環境保全の理念を根付かせる事です。

各地域ロータリークラブの環境保全活動は、次の事例を参考として活動していただきたい。①各地域において、環境保全のニーズに対しアンテナをはり、情報を収集する。②そのニーズを調査、分析し、如何にするかを考え、必要と思われる事業を取り上げる。③小委員会で出来る事業であっても、他の委員会、ＲＣ全員で事業を遂行する。④事業を遂行に当たり、地域住民の協力を得、ローターアクトクラブ、インターアクトクラブ等、他の奉仕団体と協力し事業の輪を拡げる。⑤環境教育等を実施し、地域住民、そして次代を担う子供達に環境保全の大切さ、理念を知っていただき、地球環境を守る人々や子供達を育てる。

当委員会では、７月27日（土）に、第2650地区環境保全委員長会議･研修会を開催いたしました。当日、本田茂諮問委員には環境保全委員会の取り組みの方法の御指導をねがい、中井克樹理学博士には琵琶湖の外来魚の生態と現状を講演していただきました。

また、I.M.単位で各地を訪れ、各ブロックの環境保全の様子、取り組み方等を話し合い、情報の交換、収集を行いました。環境問題以外にもロータリーのあり方、ロータリアンの人間性の問題へもおよびました。各地域の特徴ある活動に見識を深め、当委員会と各地区委員長との交流の場となりました。

I.M.単位で各地区をまわりますと、各ブロックとも非常に熱心に取り組まれています。植樹、ゴミの分別収集、河川や公園の清掃、自然観察会等さまざまです。その中でも河川の清掃、ゴミの種類、生物の生態調査等、ＲＣ、ＲＡＣ、家族や子供達までもまきこみ、同じ活動をするなら「楽しく」と、遊びの要素まで取り入れて活動しているクラブもあり、地球の未来もまんざら悪い方向にばかりいくこともないのではと、心温まる思いでした。

今後、当委員会では、各地の素晴らしい活動を皆様方に紹介し、各クラブの活動の参考にしていただく予定です。当委員会では環境保全見学ツアーを行い、委員会の研修と親睦に役立てたいと思います。

研究グループ交換（G.S.E)派遣団員決定

G.S.E.委員会 委員長　木村 憲一

2002年９月29日（日）にG.S.E.派遣団員が下記の通り決定しましたので報告致します。

派遣地区：ＲＩ第6080地区（アメリカ、ミズーリ州）

派遣期間：2003年４月下旬～５月下旬（約５週間）予定

派遣目的：青年職業人の国際交流と自己啓発並びに国際理解の増進

団長　大川 勝彦
（亀岡ＲＣ）

藤原 恵子
（福井ＲＣ推薦）

越田 美保
（京都平安ＲＣ推薦）

杉本 直人
（奈良ＲＣ推薦）

高楠 直樹
（彦根ＲＣ推薦）

ＲＩ意義ある業績賞

意義ある業績賞委員会 委員長　直前ガバナー　西村 二郎

選定基準：

■プロジェクトは、地元の問題またはニーズを対象とするものか？（どのように意義のあるものであっても、国際奉仕プロジェクトは本賞を受賞する資格はありません。）
■プロジェクトは、単なる金銭的な奉仕でなく、クラブ会員の大半または全員が直接参加するようなものか？
■プロジェクトは、クラブの大きさ、入手できる資源に釣り合ったものか？
■プロジェクトは、地域社会にロータリーのイメージを高揚するものか？
■プロジェクトは、他のロータリークラブがこれを模範とすることができるか？
■プロジェクトは当該年度に始められたものである必要はないが、現に実施中、もしくはその表彰が行われる現ロータリー年度に完了するものか？

申請手続き：

■この賞に参加されますクラブは、活動の目的、記録写真、活動の状況とその成果の判断できる申請書を、ガバナー事務所へ提出してください。

締め切り日：

■2002年12月31日

ガバナー賞

国際ロータリー第2650地区では例年に倣って、地区ガバナー賞を設けております。地区内のクラブまたは個人が、次の４つの目標のうち一つを達成したとき、受賞資格があるクラブまたは個人と判定し、来年４月の地区大会において表彰いたいします。

2003年２月28日までに、資格のあるクラブはガバナー事務所まで報告してください。

重点課題：

●自分のクラブに慈愛の種を播く
●自分の職場に慈愛の種を播く
●地域社会に慈愛の種を播く
●世界に慈愛の種を播く

（詳細はガバナー事務所までお問い合わせください）

第2組　インターシティーミーティング

クラブに慈愛の種を播きましょう

～これからのロータリーは如何にあるべきか～

I.M.実行委員長　清水 孝雄（宮津ＲＣ）

2002～2003年度第２組I.M.を秋晴れの中、平成14年９月21日(土)天橋立宮津ロイヤルホテルにおいて岡村吾郎ガバナー主催のもと７クラブ会員数396名中270名出席参加を得、13時に開会、点鐘に続きプログラムの通り進めて参りました。

13時30分から14時55分、フォーラムはゼネラルリーダー山田三郎様にお願いをして、７ロータリークラブ会長が、テーマ(クラブに慈愛の種を播きましょう）サブテーマ(これからのロータリーは如何にあるべきか)両丹７ＲＣ会長より色々と各クラブの問題等々の発表があり、大変勉強になりました。その中で、どこのクラブも、ここ数年来会員の減少に歯止めがかからないというクラブが多々ありました。

今日のような厳しい時代の会員増強は、時代に合わせて無理をしないで如何に魅力のあるロータリーにするかが問題で、時間がかかっても会員増強の最も有力な方法であるとも言われておりました。

基調講演にはマリ・クリスティーヌ国連人間居住センター親善大使の講演をいただき、（社会に慈愛の種を播きましょう）と都市計画、街づくり、環境整備、地域社会のあり方、過疎化や活性化、高齢化など女性問題、教育問題、人権問題等々ボランティア活動に精力的に活動をしておられ、わかりやすく良い基調講演でありました。

次には、頭を休める為に、京都府立加悦谷高等学校合唱部によるコンサートを30分聞き、ウイーンにて三冠優勝をしたすばらしいコンサートにうっとりし、リラックスしたところで閉会式典に入りました。

親睦会では、１時間なごやかに楽しく、友情と親睦がはかられた様に思います。

参加会員から本当に良かった良かったと喜んでいただき無事終わる事が出来ました。すばらしいインターシティーミーティングが出来た事に岡村ガバナーをはじめ地区役員の皆様、またゼネラルリーダー山田三郎様に深く感謝を申し上げます。

I.M.に先立ち、会長会議において、次年度ホストクラブは舞鶴ＲＣに決定されたことが岡村ガバナーより報告され、再会を約束して閉会の点鐘で、終わりました。出席をいただいた会員様に厚く御礼を申し上げます。

第5組　インターシティーミーティング

社会に慈愛の種を播こう（ロータリーに何ができるか）

～これからのロータリーは如何にあるべきか～

I.M.実行委員長　佐々木 照誠（鯖江北ＲＣ）

国際ロータリー第2650地区の第5組のインターシティーミーティングは、10月5日（土）午後、鯖江市文化センターで開催されました。岡村吾郎ガバナー、宮﨑茂和ゼネラルリーダー、パストガバナー、地区委員はじめロータリアン429人が登録しました。

ガバナー点鐘にて開会式を挙行、その中で表彰状伝達が行われ「米山記念奨学会奉仕賞」を福井西・敦賀・丸岡ＲＣ。「ＲＩ広報賞」を武生ＲＣが受賞されました。

今回のI.M.は基調講演は行わず、第１部は「社会に慈愛の種を播こう」をテーマに「ロータリーに何ができるか」をパネルディスカッション。ゼネラルリーダーは宮﨑パストガバナー。司会は当クラブの布谷清隆会員。パネリストは大関賢治氏（若越ひかりの村）、渕辺信俊氏（光道園）、渡辺登美子（ハスの実の家）。

このパネルディスカッションでは、本来我々ロータリアンが「社会に慈愛の種を播かせてもらう（自分の立場からしか物事を考えない）」のですが、今回は「慈愛の種を受けてもらう人たち（社会的弱者と言われる視覚障害のある方にスポットをあて）」の側から、「ロータリーにどのような慈愛の種を求めているか」を聞かせていただき、「ロータリーに何ができるか」を問わせていただきました。

パネリストからはボランティアの形で協力願えればという要望がありました。

第２部は「これからのロータリーは如何にあるべきか」をテーマにパネルディスカッション。これは余りにも奥が深く、永遠のテーマであります。ゼネラルリーダーは同じく宮﨑パストガバナー。コーディネーターは当クラブの伊与暁洋会員。パネリストは清水慶造氏（福井ＲＣ）、宮本喜光氏（武生府中ＲＣ）、田村康夫氏（鯖江ＲＣ）。

先ず、伊与コーディネーターより

問１．会員増強の際などに、ロータリーについて、どう説明されますか？

問２．現在のロータリーの問題点は何ですか？

問３．近年の著しい会員数減少の原因は？

問４．何をどう克服していったら、ロータリーの今後の展望が開けると考えますか？

という設問があり、それぞれに、規制緩和も時代の流に必要であろうけれど考える余地があり、ロータリーのぜい肉を取る必要性、最後にロータリーの原点に帰ることがロータリーあらしめることだと発言され、共感を得ました。

夜は鯖江シティーホテルで交流会。

今回のI.M.が有意義な内に終了しましたのも皆様方のお陰と感謝致します。尚、次期ホストは勝山ＲＣに引き継がれました。

「ビオ・トープ」と取り組んで

近江八幡ロータリークラブ　　高木 信彦

石を敷いたり泥を縫ったり、なかなか大変です

今年45周年を迎える近江八幡ロータリークラブにとって、前年度事業によりガバナー賞を受賞できたことは、これからの往く道を一層輝かしいものとした。

2001～2002年度の社会奉仕委員会では、環境問題をも含めて、自然と共生する思想をしっかりと自覚するために、自然環境復元への実験の「場」を設置することこそ果たすべき役割と認識し、「ビオ・トープ」の創設を企画した。

当初JR近江八幡駅の南側に設置を考えたが、流水や管理のうえから検討を重ねた結果、市立八幡小学校（児童数795名）に設置を決定した。幸い学校や教育委員会のご理解を得て設計にとりかかった。

社会奉仕委員会において討議を重ねて予算を編成したが、建設関係の会員の奉仕による重機の提供と全員が奉仕作業で汗を流すことを決定し、今年１月15日（火）に地鎮祭を行うところまで漕ぎつけた。２月３日（日）の委員会を現地で開催し、工程表とメンバーの参加奉仕一覧表を作成し、総括責任者として中村利治委員長が全日程に出席した。２月16日（土）、17日（日）、23日（土）、24日（日）の４日間、寒風の中を全員が身体に汗をして作業を進めた。一つの目標を設定してその具現に向って全会員が共に汗を流し、作業に携わると自然に友情の輪が広がり、共感が高まることを皆が実感した。最終日の２月24日（日）には八幡小学校のPTAも参加協力をいただくなかで、170平方メートルの池を作り、水を流入し、魚を放流して、２月28日（木）に市長・教育長を迎えて喜びのうちに竣工式を終えた。

「街に自然を」を目ざして創設したビオ・トープは、ますます自然環境作りへの関心を高め、幼児・児童の観察会の実践を通して一層深められることを期待したいものである。

この大きな事業の遂行を果された中村利治委員長は、ご自身、療養中を押して活動されたのであり、加えて奥様のご入院による病床看護の傍ら（７月ご逝去）大任を果たされたことを特記して、改めて労を讃えたい。

遮水シート張りと湿地ロール据付

エコスクール2001年まいづる探検隊

舞鶴ロータリークラブ　　神原 康夫

エコスクール経過概要

1996年環境保全は全世界、全人類共通の課題であるという社会の高まりを受け、当クラブは、これまで舞鶴市主催の伊佐津川「水辺教室」に積極的に参加し、水質汚濁の現状を青少年及び市民の方々と共に数年調査学習し、これを元に、98年舞鶴市動植物生息地図を作成し、関係機関に配布、環境保全の教材に供し、この地図を元に、99年エコスクールを実施する。市民38名、会員15名にて近郊の自然環境の実態を学習して廻り、環境保全への取り組みの大切さを理解し、自然を守る意識が深まった。更にこの環境保全問題と併せて、青少年健全育成問題の一助としてエコスクールをクラブあげて取り組む事が決定された。

エコスクール2001　まいづる探検隊

[趣旨] 環境保全問題、青少年健全育成問題は、現代社会の大きな課題であります。当クラブとしても、昨年に続きこの課題に真剣に取り組む為に、市の環境衛生課の後援を受け、更に各報道機関の友援、地域の方々のお力添えを得て、本年度は水の源である、赤岩山西方寺平を訪れ、素晴らしい自然環境を探索し、自ら体験することによって、自然保護の大切さを学び、舞鶴市内の豊かな自然を守り育てる心の育成を目的として実施する。

[実施時期]　2001年8月18日（土）

[実施場所]　赤岩山（660m）西方寺平

[参 加 者]　児童（70名）と保護者（15名）85名、講師5名、会員34名、地域12名　計136名

[事業内容と行程]

9 :45～11:00　集合ハローワーク駐車場、受付、移動（西方寺平）
11:00～11:30　決団式　会長・館長 挨拶
11:40～12:20　昼食　西方寺米、焼鳥、ゆで卵
12:20～14:50　班別行動　熊班＝登山隊（講師：霜尾）・トンボ班＝昆虫観察（講師：一瀬）・植物班小由里、野鳥班増田各指導者の説明を受け、自然保全の大切さを学習
14:50～15:20　岡田中公民館移動　班別および発表
15:20～15:40　全体会議　体験発表（各リーダー）　参加者より設問の解答を受ける。
〈解答例〉自然の豊かさを知った・水がきれいだった・景色が良い・色々な動植物があって良い・おにぎりと焼鳥がうまかった・地域の方々の親切に感動した
15:40～16:10　解団式
16:30　解散

2650 地区探訪

地区内の伝統的な「行事」や「芸能」「食」などに関する話題を地元ＲＣからお伝えします

京の夏の風物詩“JIZŌBON”
—おいけ＆あねやこうじ京都洛中地蔵盆in新風館—

京都洛中ＲＣ
久我 儼昭

人と人とのつながりが希薄になっている現在、地域社会が心をつなぎともに生きる絆を深めることがいかに大切かということを再認識し、それが地域振興の一助になると考え、京の夏の風物詩“JIZŌBON”を開催しました。

京都というまちは古来よりお互いが助け合い様々な文化を育み、よりよき社会を創造してきました。その中心をなしたのが地蔵盆という行事です。これは宗教行事というよりもそれを大きく越え、地域に根付く最も重要な文化です。勿論今も京都では町内ごとに開催されるその伝統が受け継がれています。

当日京都のシンボルロードの御池通には910基の行灯を並べ、街を幻想的な地蔵盆にという試みもいたしました。その行灯の絵は小学生や幼稚園児が描いてくれました。京都の街並みに似合う日本情緒豊かな行灯の明かりは京都ならではの「みやび」を醸し出し、地域住民の「私たちの都市（まち）」という意識をより一層高揚させました。行灯をながめつつ歩を進めると今京都で一番人気があるという総合商業施設「新風館」に行き着きます。そこでエンニチやワークショップで地蔵盆の雰囲気を演出すると共に、環境という大きな問題を参加者全員に考えていただくため、ミニ燃料電池車やガスコージュネの実験モデルやビオトープなどのコーナーも設けました。

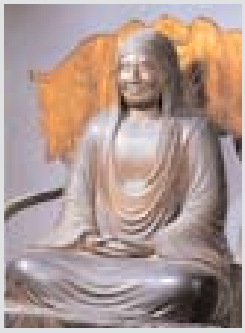
中でも新風館内の行灯はローソクを使わず21世紀の明かりとしてガスコージュネを使用し、点灯式には松井京都洛中RC会長と京都市教育委員会門川教育長がカウントダウンの後ボタンを押され、たくさんの行灯に21世紀の明かりがともりました。

当日は約1000名の子どもたちが参加をしてくれて、京都の文化を再認識してくれたことと思います。

皆様のご協力を得てクラブあげて有意義な事業が展開できました。

シンボルの達磨と砂かけ祭り

王寺ＲＣ
北之坊 和代



左/達磨寺　右/達磨大師像（重要文化財・旧国宝）

私達の王寺ロータリークラブは、奈良県の北西部にあります。エリアは王寺町・河合町・上牧町の３町にまがたります。その中でまずご紹介したいのは、私共のバナーのモデルになっている「達磨」が祀られている「達磨寺」です。このお寺は大変古いお寺で、我国最初の勅撰歴史書『日本書紀』に推古天皇21年（613年）のくだりに聖徳太子伝記中最も著名な「片岡山飢人御慰問」が記載されて居ります。その話は別の機会にして、このお寺の伝統行事は毎年４月11日に達磨会式といって、この境内にある保育園の子供達がお稚児さんの衣装を身につけ、境内を練り歩きます。そしてお茶席が設けられ、境内の中はお店が軒並みに並んでいます。

そして、もう一つ忘れてはならない河合町の廣瀬大社をご紹介します。何をかくそうこの神社は、私達クラブの会長の家です。廣瀬大社は、崇神天皇９年（前89年）、廣瀬の河合の里長に御神託があり、一夜で沼地が陸地に変化し、橘が数多く生えたことが天皇に伝わり、この地に社殿を建てられ祀られるようになりました。この大社の伝統行事の「砂かけ祭り」は全国的に有名で、毎年２月11日に祭典がとり行われます。「砂かけ祭り」は２部に分かれ、「殿上の儀」と「庭上の儀」が行われ、五穀豊穣と雨水の多量を願うと共に、厄除けを願う祭りでもあります。

行事は、木製の牛面をかぶった牛役、田人（お百姓）と早乙女によって行われます。TVでよく放映されるのがこの「庭上の儀」で、拝殿前の広場に青竹を四本立て、注連縄を張って田圃に見立てます。太鼓の合図で田人と牛が出て田植えの所作をした後、参拝者に砂をかけます。それに対し、参拝者がかけ返し、砂合戦が始まります。このことから「砂かけ祭り」と呼ばれます。この砂のかけ合いは、一回五分程度で八回繰り返されます。砂は雨になぞられており、かけ合いが盛んである程雨が多く降ると言われ、この砂にかかると厄除けにもなります。その後、早乙女が登場し、田植えを行うと庭上の儀は終わります。練習のことなどを会長にインタビューしますと、牛やお百姓、早乙女になってくださる方は自治会の自衛消防団の方達で、練習は１回。お祭の仕方のマニュアルの本があって、それを各自で覚えるとの事です。忘れたらどうするの？という事で、最後に参拝者に対し、松苗と田餅を撒かれます。松苗は松の葉で作られ、中に籾種が２～３粒は入っており、藁で巻かれています。これは田の水口に刺すと悪病、害虫、悪水などから田を守り、また、家の玄関口に刺しておくと厄除けのお守りにもなります。田餅は、食べると無病息災で一年が過ごせるということです。筆者も来年の２月11日は是非参拝しようと思っています。読者の皆様も是非、ご参拝されると一年間無病息災に守って頂けますよ。

廣瀬神社　砂かけ祭